

“がけやま”からのつづやき (5)

—巣ごもりの中で博物館から心の栄養を…お届けします—

本年3月号より博物館で実施した展示会の裏話をつづやいております。気分転換にご一読いただければ幸いです。今回は、平成18年度に開催した「彫刻を楽しむ—木造雲中供養菩薩像—」を取り上げます。この展示会は、少し異色の展示会でした。朝日町の歴史文化をテーマにする内容では、彫刻を取り上げる機会がありません。しかし、博物館は貴重な文化財を鑑賞できる施設でもあります。そこで、この展示はみなさんに彫刻作品の優品をみてもらおうと企画したものです。

展示したのは、雲中供養菩薩像1軀のみ。所蔵機関のご協力で借用できました。10円玉（十円青銅貨幣）にデザインされている平等院鳳凰堂のことをご存知の方は多いと思います。この鳳凰堂には、本尊阿弥陀如来坐像を囲むように、壁に極楽浄土を現した菩薩像が52軀懸けられています。すべて国宝です。展示した雲中供養菩薩像は、平等院の長い歴史の中で流出したと考えられているものです。保存状態は良く、鳳凰堂内に現存するものと比べても、かなり上位の部類に入るものでした。

たくさん子どもたちにもみてもらおうと、夏休みの期間に開催しました。暗い展示室に菩薩像が浮かび上がるように照明を調整し、来館者の方ができるだけ近づいて細部までご覧いただくためケース内の前方に展示したり、ゆっくり全体を眺めたい方には、時間が経つのを忘れてもらえるような感覚で座って鑑賞できるよう展示室中央に長椅子を設置したりしました。

来館者の声としては、素直に感動されたという方、彫刻にお詳しい方からは「すごい」の一言。一方、子どもたちからは「孫悟空みたい」という声が一番多かったです。子どもの創造力はたくましいと感じました。この雲中供養菩薩像、雲（飛雲）に乗ったお地蔵さんの姿をしています。当時、流行っていたアニメは「鬼〇の刃」ではなく、「ドラゴンボール」リバイバルブームの頃でした…納得。その後、この作品は国の重要文化財に指定されました。

さて、この“つづやき”も今回で最終回となります。博物館の展示会を少しでも知っていただく、思い出話や裏話をご紹介します。この駄文にお付き合いいただきましたみなさまに感謝申し上げます。第2回（4月号）で過去5年分の展示会をご紹介しますが、それ以前の展示会は表のとおりです。全部で42回の展示会を開催しました。まだまだ話は尽きないのですが、貴重な「広報あさひ」の紙面を5回分も割いてしまい大変恐縮しております。コロナ禍での不自由な生活は今後も続きそうですが、第1回で申し上げましたとおり、博物館はみなさまの「“知”への向上心」にお応えできるよう、満足していただけるよう、今後も展示会や講演会などを企画していきますので、暖かく見守っていただければと思います。（おわり）

回目	開催年度	展示会タイトル
33	平成27年度	真秀と立仙の活躍した時代—復古大和絵派と円山四条派—
32		萬古焼、東へ—秋田・二本松・嶋山・足利—
31	平成26年度	名物やきはまぐり—街道の文化—
30		平戸松浦家名宝展
29	平成25年度	朝日の名づけ親 館通因と壬申の乱
28		俳文学の世界展
27	平成24年度	魅惑の白—天神萬古の世界—
26		橘守部の学問—斯道文庫コレクション展—
25	平成23年度	連歌と一揆—柿城の時代—
24		江戸時代の旅案内—地図・絵図・名所図会の世界—
23	平成22年度	有節萬古の技術
22		明治の歌人 橘東世子・道守
21	平成21年度	江戸文学の世界
20	平成20年度	栗田真秀展
19		やきものを楽しむ—古九谷の二作品—
18	平成19年度	中村古松コレクション展
17		日本画を楽しむ—曾我蕭白さんの作品—
16	平成18年度	郷土の人 橘守部
15		彫刻を楽しむ—木造雲中供養菩薩像—
14	平成17年度	よみがえる萬古不易—有節の桜色と萬古窯—
13	平成16年度	江戸期 子ども絵本の世界
12	平成15年度	未来に残そう朝日の情景
11		守部と秋主と平戸藩—国学者をとりまく人々—
10	平成14年度	萬古の美—有節以前—
9		朝日の歴史資料展—新収館蔵品を中心に—
8	平成13年度	水谷立仙展
7		東海道宿場伝馬制度制定400周年記念 三重の旅人たち
6	平成12年度	近代俳句史を彩った人々—中村古松コレクションより—
5		橘守部と伊勢の国学者たち
4	平成11年度	栗田真秀展
3		縄生庵寺出土舍利容器里帰り展—ひと・まち・みちの今昔—
2	平成10年度	中村古松とその時代—『松の葉』と周辺の俳人たち—
1		復興萬古—有節の求めたもの—

【平成27年度以前の展示会一覧】